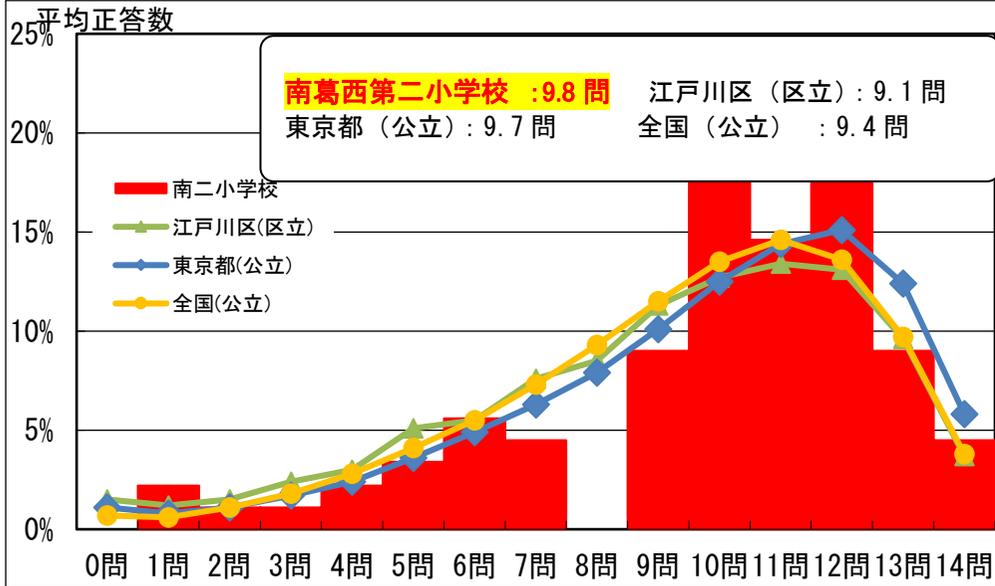


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】南葛西第二小学校

正答数分布



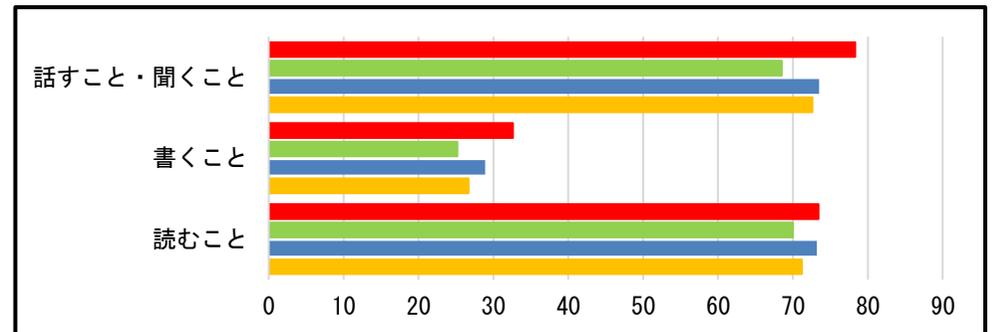
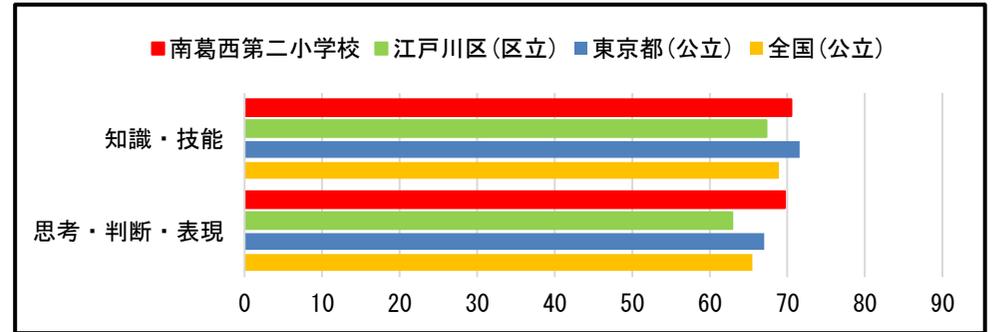
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
南葛西第二小学校	33.7	33.7	12.4	20.2
江戸川区(区立)	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都(公立)	33.3	26.9	18.0	21.8
全国(公立)	27.1	28.1	20.8	24.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

南葛西第二小	70%
江戸川区(区立)	65%
東京都(公立)	69%
全国(公立)	67.2%
都との差	+1ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

記述式の問題が、すべて都の平均を上回った。考えを書くことが苦手な児童のために、書く型を示したり書き出しを示したりしてきた。国語やほかの教科において、書く型が有効であった。型を学んだことで、CD層児童も、書けるようになった。問題文の指示を正確に取り、考えを書くことができるように、音読を重視してきた。助詞等を含め、一文字一文字、正しく読むようにしてきた。物語文や説明文を読む上で、読むときの観点を示してきたが、今後も授業の中で、読むときの観点を示し、系統的に積み重ねていきたい。